

「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」の策定（報告）

動物実験は、医学・生命科学の教育、研究並びに試験に必要な手段であり、その適正な実施について、これまで、日本学術会議においては、昭和55年以来、科学上の教育、研究並びに試験における適正な動物実験のあり方についてたびたび勧告、報告等を行ってきました。

これまで政府においても、日学の勧告等を踏まえ、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律（平成17年）」の中で、実験動物についての3R（Replacement, Reduction, Refinement）の原則を明文化しております。これを受けて、文部科学省及び厚生労働省においては、それぞれの所管研究機関における動物実験等の実施に関する基本方針を検討してきました。その過程で、平成17年11月22日に文部科学省、平成18年3月9日に厚生労働省から、それぞれ日本学術会議に対し、各研究機関において、両省の基本方針を踏まえた規程を整備する上で参考となるガイドラインの作成の依頼があったものです。

日本学術会議においては、これを受けて、第二部拡大役員会を中心に、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」を取りまとめ、5月25日幹事会において審議、承認を得ましたので、本ガイドラインを6月1日に公表するとともに両省に回答したものです。

ガイドラインの詳細については、日本学術会議ホームページを御参照ください。

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-k16-2.pdf>

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官室（審議第一担当）

(Tel:03-3403-1091、s252@scj.go.jp)

SPIE（国際光学会）会長来訪（報告）

5月19日、SPIEのDr. Paul F. McManamon 会長が日本学術会議会長を表敬及び意見交換のために訪問しました。

McManamon 会長からは、SPIEが日本の関係機関と国際的な協力を行いたいとの発言がありました。日本側からは、科学者を相互派遣するフレームワークがあること、

さらに目下の課題は学術についての世界の認識を増大することであり、英国 RS(Royal Society)や米国 NAS(National Academy of Sciences)も同様の意識があることを説明しました。また、2005年2月から3月にかけてつくばで行った「日米学術会議センサー共同ワークショップ」について説明しました。

今後の相互の交流、情報交換等を含め、活発な議論が行われました。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官室（国際業務担当）国際調査担当

（Tel:03-3403-5731、i266@scj.go.jp）

中部地区会議学術講演会の開催（案内）

期 日：6月23日（金）

場 所：福井大学総合研究棟1 13階 大会議室（福井市）

標記講演会は、日本学術会議中部地区会議の主催により開催されます。18年度より中部地区会議事務局が名古屋大学から中部大学へと変更となりましたが、変更後における初めての学術講演会となります。

講演会では、児嶋眞平福井大学長の挨拶のほか、黒川清日本学術会議会長による「科学者コミュニティと社会」と題する講演のほか、野嶋慎二福井大学工学部教授、竹内幸子田原町デザイン会議代表及び福井大学大学院生による「大学と住民の協働によるまちづくり実践教育」と題する講演が予定されております。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課広報係

（Tel:03-3403-1906、p227@scj.go.jp）

日本学術会議ニュースメールは、日本学術会議第20期会員・連携会員、日本学術会議協力学術研究団体などに配信しています。転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようお取り計らいください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、事務局（p228@scj.go.jp）まで御一報いただければ幸いです。

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34